

＜中学校 英語＞

積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成

－構成的グループエンカウターの手法を取り入れた言語活動を通して－

豊見城市立豊見城中学校教諭 根路銘 みどり

内容要約

国際社会で生きる現代の子どもたちには、「実践的コミュニケーション能力の育成」が求められている。そこで、授業に対話活動を取り入れている。しかし、積極的に活動する生徒とそうでない生徒がいる。その一因として、英語力以外にもクラスの対話しやすい雰囲気作りが必要であることが、調査の結果明らかになった。コミュニケーションには人間関係を築く力もある。そのことに視点を置いて授業を取り組んだ。英語表現の定着を図る場において、構成的グループエンカウターの手法を取り入れることによって、自己肯定感やよりよい人間関係も育まれ、対話しやすい雰囲気ができ、積極的にコミュニケーションを図ろうとするようになった。

【キーワード】 積極的にコミュニケーションを図ろうとする SGEの手法 自己肯定感
よりよい人間関係 対話しやすい雰囲気作り

目 次

I	テーマ設定の理由	31
II	研究内容	32
1	実践的コミュニケーション能力とは	32
2	授業に生かすエンカウターとは	32
3	実践的コミュニケーション能力を伸ばす SGE を取り入れた学習指導の工夫	33
III	授業実践	34
1	単元名	34
2	単元設定の理由	34
3	単元の目標	35
4	単元の指導計画と評価計画	36
5	本時の学習	36
6	授業仮説の検証	37
IV	研究全体の考察	38
1	「対話しやすい雰囲気」ができたか	38
2	「積極的にコミュニケーションを図ろうとする」ことができたか	40
V	研究の成果と今後の課題	40
1	研究の成果	40
2	今後の課題	40

<中学校 英語>

積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成

—構成的グループエンカウターの手法を取り入れた言語活動を通して—

豊見城市立豊見城中学校教諭 根路銘 みどり

I テーマ設定理由

交通機関の発達はある場所への移動を可能とし、情報通信技術の発達は私たちに瞬時に世界の状況を提供してくれる。今や世界はグローバルな視点にたつて物事が進んでいく。そして、世界を相手に活躍する日本人も多くなった昨今の社会情勢を受けて、中学校学習指導要領第2章第1節「外国語」も改訂された。その目標には「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。」とあり、「聞くこと・話すこと」に重点がおかれている。さらに、平成14年に文部科学省は『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想を策定した。国際社会を生きる子供たちにとって、実践的コミュニケーション能力はますます重要とされている。これまで他府県の一部の私立学校で行われていたイマージョン教育やバイリンガル教育を、積極的に導入しようとする公立学校も登場した。沖縄県においても、平成17年より「イマージョン教育のための教員研修プログラム」が開設され、英語教育の基盤整備が進んでいる。

これまでの教育実践でコミュニケーションを図る活動として、ペアやグループでの英語表現を使ったインタビューゲーム等を取り入れてきた。しかし、個々の英語力にかかわらず取り組みに消極的な生徒や、毎回同じ人としか組まない生徒もいる。クラスによっては、インタビューするのが難しい雰囲気のところもある。英語学習においてのみでなく、他にも課題があるように思われる。その原因の一つとして、集団の中で他者との交わりや自己表現を苦手とすることがあげられる。それで、生徒が安心して英語活動を行えるような授業の雰囲気作りが必要になる。

「育てるカウンセリング」の一つに、よりよい人間関係作りを目指す「エンカウター」がある。その代表的な手法に構成的グループエンカウター (Structured Group Encounter: 略称SGE) があげられる。SGEとは、言葉を通して他者と関わり、他者を知り、己を知ることがねらいとしている。諸富(2004)は、人間関係が希薄になった現在において、子どもたちの人間関係能力が育ちにくくなっており、これからの時代は、学校教育のカリキュラムの中に人間関係トレーニングを積極的に仕組んでいくことが必要だと述べている。これらの活動を通して、子どもの心に集団の中で“自己肯定感”が生まれ、“生きる力”の根源となる。SGEのショートエクササイズの中には、日々私たちが英語の授業の中で実践しているコミュニケーションを図る活動との類似点が多い。英語の授業で行われている言語活動にSGEの手法を取り入れることで、さらにコミュニケーションを図る活動を活発にしたい。

そこで、SGEの手法を意識して言語活動の中に取り入れ、授業の雰囲気作りをし、安堵感の中でインタビューゲーム等のコミュニケーションを図る活動や自己表現作文の活動を行いたい。発せられた言葉に勇気づけられ、心が豊かになり、自己肯定感を築き、他者をも受け入れ、自らの人生を大切に生きていこうとする生徒を、英語の授業を通して育てていきたい。その最初の段階として自己肯定感やよりよい人間関係を育むことで対話しやすい雰囲気ができ、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成」につながると考え、本テーマを設定した。

<研究仮説>

英語表現の定着を図る場において、構成的グループエンカウターの手法を取り入れることによって、対話しやすい雰囲気ができ、積極的にコミュニケーションを図ろうとするであろう。

Ⅱ 研究内容

1 実践的コミュニケーション能力とは

学習指導要領において、「実践的コミュニケーション能力」とは、単に外国の文法規則や語彙などについての知識をもっているというだけではなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力のことである、と示されている。

コミュニケーション能力は Canal and Swain(1980)の仮説を基にした Savignon(1983)の分析で、次の4つから構成される。

文法能力	英語の語句、構文、文法や発音などについての知識を持ち、聞いたり読んだりする理解の能力とそれらを話したり書いたりする表現の能力
社会言語能力	英語を使う際にその表現がその場面に適しているかどうかを判断する能力や、文を適切な場面で使うことのできる能力
談話能力	対話や談話などを全体として意味のつながりを理解したり表現したりする能力
方法能力	コミュニケーションが断絶することなく、スムーズに行われるように言い換えたり、繰り返したり、言葉につまった時などつなぎ表現を使ったりしながら、コミュニケーションを継続させる能力

上述の能力を育成するためには、英語の授業において言語活動が活発に進められるように、何でも話せる雰囲気作りが大切になる。そこで、授業にエンカウターの手法を取り入れたい。

2 授業に生かすエンカウターとは

(1) エンカウターとは

エンカウターとは「出会い」という意味であり、「出会い」とは心と心の通い合う「私」と「あなた」の関係をいう。ここでは「自己との出会い」「他者との出会い」の二つを意味している。出会いのあるところには、癒しがある。またそこには自己啓発や自己変革があり、究極的には私たちの人間的成長がある。

エンカウターするとは次の六つを体験することである。①ホンネを知る ②ホンネを表現する ③ホンネを主張する ④他者のホンネを受け入れる ⑤他者の行動の一貫性を信ずる ⑥他者との関わりを持つ

エンカウターは、エクササイズを介して、リレーションを作り、リレーションを介して自己発見、他者発見、人生発見（発見とは認知の修正・拡大の意）を促進する教育的色彩の強い援助法である。

(2) 構成的グループエンカウター

構成的グループエンカウターとは、“育てるカウンセリング”の代表的な方法の一つである。エンカウターの手法で、「構成」とは、枠をはめるという意味で、時間や人数やルールという枠(制限)を設けることにより表現しやすく、心理的外傷を防ぎやすくする。つまり、構成的グループエンカウター(SGE)とは、集団(グループ)体験を通して他者と出会い(人間関係を作る)、自己と出会う(人間関係を通して自己発見する)ことである。

SGEは、集団で行う演習課題(エクササイズ)を通して心理的発達をねらうがそのねらいによって①自己理解、②他者理解、③自己受容、④自己主張、⑤信頼体験、⑥感受性の促進の六種類に分けられる。英語の授業での活動においても、この①～⑥をねらいとすることができる。

SGEには、進めるうえで欠かせない4つの原則がある。それは、①インストラクション、②エクササイズ(課題)、③シェアリング、④介入である。エクササイズとは心理面の発達を促す課題である。シェアリングは、エクササイズに取り組んだあとに行うもので、「エクササイズをして感じたことや気づいたこと」を語り合い、共有する。

英語の授業で行うコミュニケーションを図る活動等の言語活動は、SGEのエクササイズに類似している。また、今までの授業のまとめに行っていた終末の活動に、シェアリングを効果的に活用したい。そうすることで、よりコミュニケーションが生徒の心に迫ったものとなる。

(3) 授業に生かすエンカウターとは

“育てるカウンセリング”というコンセプトが教育現場で注目されている。教師にとってカウンセリングは、今や、問題や悩みを抱えた一部の子どもたちの相談にのっていくようなものでなく、学校

に通うすべての子どもたちの心に積極的に関わっていく不可欠の技能（スキル）である。学級などの集団を対象とし、自己成長や人間関係の育成を目的とする。“育てるカウンセリング”の諸方法は各教科の授業においても実行できる。よって、構成的グループエンカウンター（SGE）は、授業に生かせるエンカウンターだといえる。

英語の授業においては、「英語」という言葉を学ぶことで、他者とコミュニケーションをとり、異文化と接する。その中で、自己を見つめ、違いを受け入れ、新たな考え方や視点を得る。上述のSGEの①～⑥のねらいは、英語学習においても共通している。SGEを英語の授業計画に位置づけ継続的に実践していくことによって、生徒の思考や感情に焦点を当てて、生徒相互のふれあいを基盤とした実践的コミュニケーション能力の育成を図っていききたい。

3 実践的コミュニケーション能力を伸ばすSGEを取り入れた学習指導の工夫

(1) コミュニケーションを図る活動とSGEの類似点の検討

① 目標

コミュニケーションを図る活動で目指すコミュニケーション能力には「伝える力」以外に「人間関係を築く力」もある。他者の存在に気づき、他者を大切にしようとするのが、コミュニケーションの原点である。よりよい人間関係を築くには、まず自分を好きになることが先決である、といわれている。エンカウンターのねらいも、ふれあいと自他発見である。

② 活動内容

英語表現の定着を図る場において行う、インタビュー等のコミュニケーションを図る活動や自己表現作文では、自己を見つめて考えをまとめ、紙面で表現し発表したり、相手に直接伝え合う。SGEのショートエクササイズには、英語の授業で行う活動も多くある。SGEのショートエクササイズと英語の授業での言語活動において、共通するいくつかの活動例を表1、表2にまとめた。

表1 コミュニケーションを図る活動例

英語の授業でのアクティビティー	SGE	目的
他己紹介 This is ~. He / She is ~.	他己紹介	自己理解, 他者理解
形容詞を習ったとき You are kind because...	言葉のプレゼント	自己理解, 他者理解
最上級を習ったとき	一番おかしい失敗談	自己理解, 他者理解
I like you because....	そんなあなたが好き	自己受容
Show and Tell	ぼく、わたしのヒーロー	自己理解, 他者理解
canを学習したときのペアワーク	得意なこと・できること	自己理解, 他者理解
過去形を学習したとき	おはよう、昨日ねえ！	他者理解

表2 自己表現作文の例

英語の授業でのアクティビティー	SGE	目的
自己紹介 I から始める自己表現作文	自己紹介「わたしは誰でしょう？」	自己理解, 他者理解
他己紹介 This is ~. He / She is ~.	他己紹介	自己理解, 他者理解
I want to ~.	わたしのしたいこと	自己理解
My dream is to ~.	わたしの夢	自己理解
My Top Three	私の3大ニュース	自己理解, 他者理解

③ 評価の観点

松畑(1995)の『英語コミュニケーション能力評価事例事典』によると、評価に際して、コミュニケーションへの積極性を示す要素として、次のものがあげられている。

(☆印はSGEとの共通事項、○は英語科)

ア 四技能共通の要素

☆間違いから学ぼうとする ☆互いを認めようとする ○類推力を働かせようとする

○言語を創造的に使おうとする

イ 聞くことの要素

☆相づちを打ったりうなずいたりする ☆相手の目を見る ☆質問したり応答したりする

☆聞き取れないときに態度や言葉に表す ○メモをとる

ウ 話すことの要素

- ☆自分の立場で話そうとする ☆多くの人と話そうとする ☆目を見て話そうとする
- ☆自信を持って話そうとする ☆適切なタイミングで話そうとする ☆適切な音量で話す
- ☆適切なジェスチャーがある ○友人などに相談しないで話そうとする
- 誤りを気にしないで話そうとする ○補足したり言い換えたりする

エ 書くことの要素

- ☆テーマを探して、たくさん書こうとする ○他人の文や文章を参考にしようとする
- ☆学習したことを自分の立場を生かして書こうとする ○文法的な誤りをあまり気にしない
- 他人や辞書に頼らないで書こうとする ○辞書などを活用しようとする

(2) SGEの手法を取り入れた言語活動の工夫

コミュニケーション能力の「伝える力」以外の「人間関係を築く力」の育成を意図し、活発に活動が進むように「何でも発表できるクラスの雰囲気作り」を心がけたい。今までの言語活動を、次のように展開したい。留意点として classroom English を非言語的要素も含め習慣化する。そのために授業中に行われるあいさつやプリントを配る活動においても、目と目を合わせ笑顔でできるようにする。

	英語の活動「伝える力」	人間関係を築く力	SGE のねらい	SGE と共通する評価の観点
導入	- 既習の英語表現を使ったアクティビティー ① 昨日したこと等 ② 自己表現作文をまとめたプリントを活用	- 目と目を合わせて言葉を交わす - 一人一人の作文を鑑賞し、コメントする	感受性の促進 自己受容 他者理解	☆目を見て話そうとしているか ☆適切な音量で話しているか ☆互いを認めようとしているか
展開	- コミュニケーションを図る活動 - 自己表現作文 - 発表	- ペアやグループワークでの対話活動のマナー ① 聞き手は相づちを打つ ② 話し手は聞いてもらえるよう工夫する ③ 多くの人と関わるようにする - 自分を見つめ、考えをまとめて書く	自己理解 感受性の促進 信頼体験 自己理解 自己主張	☆相づちを打ったりうなずいたりしているか ☆相手の目を見ているか ☆自分の立場で話そうとしているか ☆多くの人と話そうとしているか ☆学習したことを自分の立場を生かして書こうとしているか
終末	- 活動を振り返り、様々な意見を共有化 - 学習した表現の振り返り	シェアリングを通して、様々な意見を共有し、自己を見つめる	自己受容 他者理解	☆互いを認めようとしているか

上述の中でも、特にシェアリングに力を入れたい。SGE の手法を生かした英語の授業において、自分の中にわき上がった感情や思考を生徒同士が「分かち合う」ことはきわめて重要であり意味がある。こうした取り組みを進める中で、生徒はクラスの全生徒と話をしたり、自己の作文が皆に認められることで、集団の中で受け入れられた自分を感じることができる。そうすることで積極的にコミュニケーションを図ろうとするのではないかと考える。生徒の思考や感情に焦点の当たった、生徒相互のふれあいを基盤とした実践的コミュニケーション能力の育成を目指したい。

Ⅲ 授業実践

1 単元名 Unit3 : John's Visit to Japan Columbus 21 English Course 3

2 単元設定の理由

- (1) 教材観 (省略) (2) 生徒観 (省略)
- (3) 指導観 (一部省略)

生徒の実態から、積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成するために、まずクラスの雰囲気作りを心がけたい。英語の授業においては「英語」という言葉を学ぶことで、他者とコミュニケーションをとる。SGE の手法を授業計画に位置づけ計画的に実践していくことによって、生徒

の思考や感情に焦点を当てて、生徒相互のふれあいを基盤とした実践的コミュニケーション能力の育成を図っていきたい。そのためには、授業を以下のように計画し実行する。

授業の展開に当たって	
・英語の得意な人と少々苦手な人でペアを作って席を決め、授業中協力して勉強を進められるようにする。 ・Classroom English をジェスチャー等をいれた非言語的要素も含め習慣化する。 ・授業の最後にシェアリングの時間を設け、本時の学習でわかったことや目標が達成できたかを確認すると同時に、自分のことクラスメイトのことで気づいたことを振り返る。意見の交換をすることで互いを認めようとする。	
「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動の工夫（☆印はSGEとの共通の評価の観点）	
コミュニケーションを図る活動のとき、英語表現をスムーズに運用できるようにするだけでなく、次の対話時のマナーも心がけたい。生徒がマナーを意識して取り組めるようにワークシートを工夫する。・・・（資料2参照） 対話の内容はできるだけ生徒の実体験に基づくものとする。・・・（資料1参照）	
対話時のマナー	聞き手 ☆相づちを打ったりうなずいたりする ☆相手の目を見る ☆質問したり応答したりする 話し手 ☆自分の立場で話そうとする ☆多くの人と話そうとする ☆目を見て話そうとする ☆自信を持って話そうとする ☆適切なタイミングで話そうとする ☆適切な音量で話そうとする ☆適切なジェスチャーがある
書くことを中心とした活動の工夫	
☆学習したことを自分の立場を生かして書こうとする（自己表現作文）ワークシートを工夫する（資料1参照）	
読みの練習の工夫	
・shadowingを取り入れ、ペアで目標を立て、協力して自主的な読みの練習を目指す。 ・練習や発表の時は、お互いに励ましの言葉やコメントを言う。	

資料1は現在完了（経験）の導入時に使ったワークシートである。「パートナー紹介」を用いて target sentence（生徒の実体験）をメインに、1,5,6には友達の名所の紹介をするためのSGEの手法を盛り込んだ。資料2は、資料1を用いてパートナー紹介をする時、活動が円滑に進むように、相づち表現を示し、どの表現を何回使用したか、多くの人と対話したかを書き込んで、確認できるよう工夫した。

My Partner

class 3 No. 35 name 仲宗根 東美

1. Let me introduce my (pretty) partner.

2. This is (Akane Takara)

3. I met him / (her) when we were (in the second grade)

4. So we have been friends for (9 years) / month.

5. I like him (her) because he / (she) is (kind)

6. She is a good handball player.

7.

ペアの日課

発表をいっしょにする

kind (優しい) beautiful (美しい) cool (かっこいい) sportman (スポーツマンな)
Hint: sweet (楽しい) pretty (かわいい) handsome (ハンサムな) a good soccer player
delightful (愉快な) cute (かわいく) nice (すてきな) a good singer

Let's enjoy talking!!

class 1.35 name 仲宗根 東美

相づちを打とう！使えた表現にはチェックをしよう、5回も使えたらばっちりアスター！

Level	1st	2nd	3rd	4th	5th
1 ah-hum	☒	☒	☒	☒	☐
2 Yes. Yeah	☒	☒	☒	☒	☐
3 oh	☒	☒	☒	☒	☐
4 Wow	☒	☒	☒	☒	☐
5 I see	☒	☒	☒	☒	☐
6 really?	☒	☒	☒	☒	☐
7 I think so.	☒	☒	☒	☒	☐
8 Wow, you have been friends for 9 years!	☒	☒	☒	☒	☐
9 You really have a good partner.	☒	☒	☒	☒	☐
10 You are a wonderful pair.	☒	☒	☒	☒	☐

たくさん人のペアと話そう！

仲宗根 東美	城島 智恵	大畑 沙紀	高橋 美紗希	佐久 幸紀年	仲宗根 東美
風見 加奈子	山崎 結樹	比嘉 花火	国吉 やすし	宮城 龍典	神田 達也
仲宗根 東美	高橋 ののち	外間 聖菜	高倉 真希	宮崎 隆	伊藤 貴

話したペアは○で囲もう

条件 大田

資料1 パートナー紹介時のワークシート

資料2 相づち表現を使って多くの人と話そう

3 単元の目標

(1) 単元目標

- ① 現在完了の用法を理解し、場面に即して表現することができる。
- ② 本文の内容を読み取り、話者が言いたかったことを理解することができる。

(2) 観点別目標・評価規準 (省略)

4 単元の指導計画と評価計画

配時	学習のめあて	学習活動	評価規準
1	現在完了(継続)を理解する	・ペアを決め、「パートナー紹介」の作文をする	☆学習したことを自分の立場を生かして書こうとする ・「have / has +過去分詞」の現在完了の文構造と用法を理解している
2	現在完了(継続)を使ってコミュニケーションを図ることができる	・「パートナー紹介」を他のペアとする ・相づち表現を使う	☆目を見て話そうとする ☆適切なジェスチャーがある ☆適切な音量で話す ☆多くの人と話そうとする ☆相づちをうったりうなずいたりする ・相手の話に興味を持ち、より具体的な内容を知ろうとする
3	Unit 3 導入：全体の概要をつかむ Part 1: Shadowing にチャレンジ	・Unit 3 全体を聞いて、概要についての Q-A をする ・Part 1 の shadowing をペアで協力して練習する	☆質問したり応答したりする ・協力して練習を行っている ・意欲的にステップアップする ・経験や完了の意味を表す表現を聞いたり読んだりして理解することができる
4	Part 1: ペアでリーディングテストを頑張ろう	・ペアで協力してテストを受ける ・shadowing でやる	・適切なタイミングで読む ☆適切な音量で発表する
5	現在完了(経験)を理解する	・現在完了(経験)を練習する ・自己表現作文をする	☆学習したことを自分の立場を生かして書こうとする ・「～したことがある」という内容について、現在完了を使って正しく尋ねたり説明したりすることができる
6	Part 2: ペアでリーディング練習と内容把握しよう	・リーディング練習と内容把握 ・shadowing をペアでやる	☆適切な音量で話す ・協力して行う
7 本時	Part 2: 協力して読みの復習をしよう 現在完了(経験)の復習をインタビューゲームで楽しもう	・shadowing でやる ・コミュニケーションを図る活動	☆目を見て話そうとする ☆適切なジェスチャーがある ☆適切な音量で話す ☆多くの人と話そうとする ☆相づちを打ったりうなずいたりする ・相手の話に興味を持ち、より具体的な内容を知ろうとする
10	Part 4: リーディング練習と内容把握をしよう	・リーディング練習と内容把握 ・shadowing をペアでやる	・相手の読みをしっかりと聞きながら進める

5 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ① Unit 3 part 2 の読みの練習：読みの練習・内容把握・ペアで協力して活動できる。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ② 現在完了(経験)の復習・発展：自分の経験を現在完了を使って表現し、コミュニケーションを図る。(表現の能力)

(2) 本時の授業仮説

現在完了(経験)の定着を図る場において、励ましの言葉をかける、相づち表現を使う等の SGE の手法を取り入れることによって対話しやすい雰囲気ができ、積極的にコミュニケーションを図ろうとするであろう。

- ① 読みの場面において、ペアで目標を立て励ましの言葉をかけながら shadowing し、互いに読みも上達し、協力してできた達成感を味わう。
- ② 対話活動の場面において、生徒の経験に基づいた現在完了(経験)の作文を使って行い、英語表現の定着を図ると同時に、相づち表現等も使い多くの級友と対話しようとする。

(3) 準備

CD ラジカセ、センテンスボード、インタビュー用ワークシート、シェアリングシート

(4) 展開

Procedure (time)	Activities		Remarks & Evaluation
	JET	students	
導入 (5 min.) Greetings	・英語であいさつする Good morning, everyone. How are you, today?	・英語であいさつする Good morning, Ms. Nerome. I'm ~ thank you, and you?	☆相手の目を見る ☆質問したり応答したりする

	I'm excited. Look at all the teachers. O.K. Stand up and say "Good morning" to three people. First, to your partner, second, to other friends and third, to the teachers. Now you can relax.	Greet with three people and sit down.	
展開 (35min.) ①読みの復習	Let's review. Open your textbooks to page 19. Listen carefully. ・CD をかける Repeat after me. ・教師との練習 ・教師との shadowing ・ペアで練習 ☆協力して練習することを確認 ・3 ペア shadowing で発表する	・CD を聞く ・読みの練習 ・教師との shadowing ・ペアで練習 ・3 ペア shadowing で発表する	☆適切な音量で ＜評価＞ ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・ペアで協力して活動できたか ・本文の内容を読み取れたか
②現在完了(経験)復習と発展	・現在完了(経験)について質問形式で確認する ・インタビューゲームの説明とワークシートを配布する ・ワークシートの発音を確認する ☆相づち表現の確認をする ・インタビューゲーム開始 You have five minutes to interview. Let's start! ・終了の合図をする O.K. Time is up. ・一番多くワークシートを回答できたペアを確認し、ほめる Let me check your worksheet. Wow, this pair interviewed ○. ・一人の生徒を指名し、その生徒について知っている情報を発表する ・多く答えられたペアをほめる ・シェアリングシートを配る	・問いに答える ・説明を聞く ・発音練習 ・ワークシートをもとに、インタビューを始める	・プリントの受け渡しの時、目を見て"Here you are." "Thank you." ＜評価＞ ②表現の能力 現在完了を使って表現しコミュニケーションできたか ☆目を見て話そうとする ☆適切な音量で話す ☆適切なジェスチャーがある ☆多くの人と話そうとする ☆相づちを打ったりうなずいたりする
まとめ (10 min) sharing	・本時の活動について振り返り、感想を述べる That's all for today. Good bye, everyone.	対話活動の様子 ・シェアリングシートに記入する ・本時の活動について振り返り、感想を述べる Good bye, Ms.Nerome.	☆自己を振り返る ☆授業中に思ったことを話す

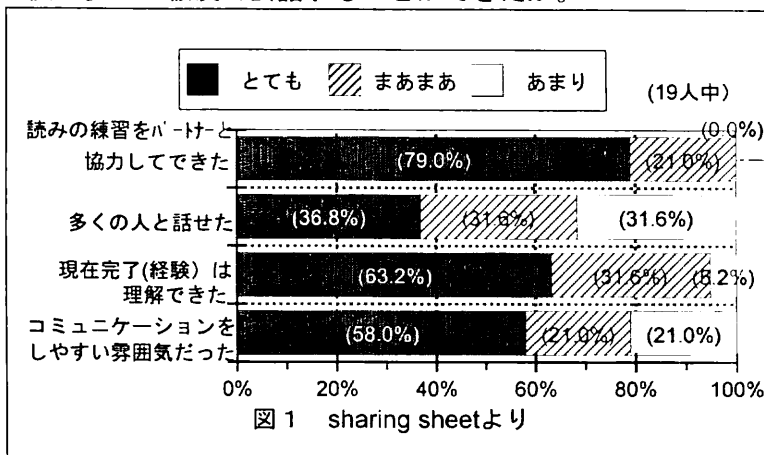
6 授業仮説の検証

① 読みの場面において、ペアで目標を立て励ましの言葉をかけながらshadowingし、互いに読みも上達し、協力してできた達成感を味わえたか。

図1は、授業後のシェアリングシートの結果である。「読みの練習をパートナーと協力してできたか」の質問に、「とても協力してできた」79%、「まあまあできた」が21%と、全員が「できた」と回答した。また、授業で本読みの発表をしたい生徒が多く、3ペア選ぶのに話し合いをした列もあった。シェアリングシートには、どのペアも目標を書いており、「協力してすらすら読めるようになった。」との感想もあった。これらのことから、協力して読みの練習をし、達成感を味わえたといえる。

- ② 対話活動の場面において、生徒の経験に基づいた現在完了(経験)の作文を使って行い、英語表現の定着を図ると同時に、相づち表現等も使い多くの級友と会話することができたか。

「多くの人と話せたか」の質問に「とても」「まあまあ」と答えた生徒を合わせると 68.4%になる。生徒の感想にも「みんな笑顔で積極的だった。」「みんな Interview のとき、発音や相づちやジェスチャーが上手だった。」とありコミュニケーションのマナーを使うことで、対話活動が活発になったといえる。また、「現在完了は理解できた」と答えた生徒は 9 割になる。



①②の手立てを踏まえたので、「とてもコミュニケーションしやすい雰囲気だった」と答えた生徒は 58.0 % , 「まあまあ」と答えた生徒は 21.0 % , 「あまりしやすい雰囲気ではなかった」と答えた生徒が 21.0 %であった。「コミュニケーションしやすい雰囲気」と答えた生徒が合計すると約 8 割となった。

以上の結果より、授業仮説は有効だったといえる。ペアで励まし合いながら読みの練習をしたことで心もほぐれ、対話活動に積極的に参加できた。相づち表現を使う、目を見て話す等 SGE の手法も取り入れたことで、対話しやすい雰囲気ができ、積極的に対話することで、現在完了も理解できた。

IV 研究の考察

研究仮説

英語表現の定着を図る場において、SGEの手法を取り入れることによって、対話しやすい雰囲気ができ、積極的にコミュニケーションを図ろうとするであろう。

1 「対話しやすい雰囲気」ができたか。

(1) 「楽しい学校生活を送るためのアンケート」Q-U の結果より

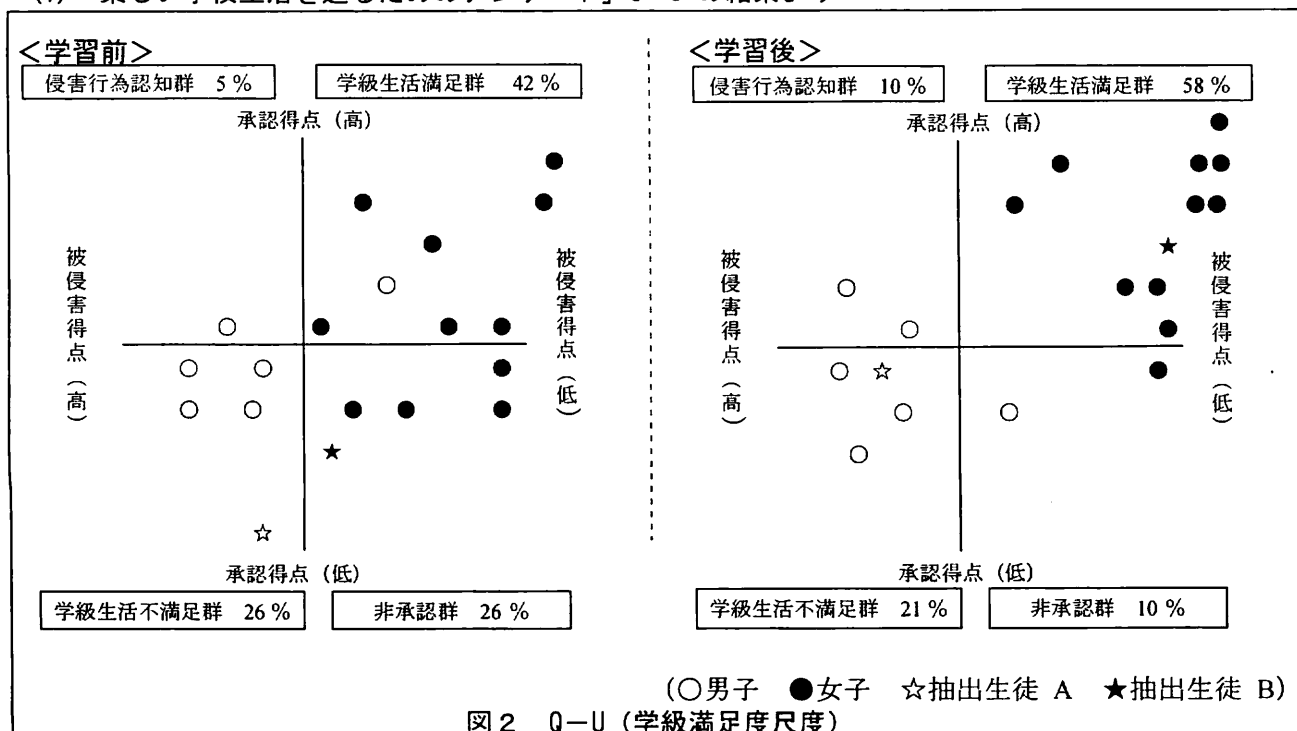
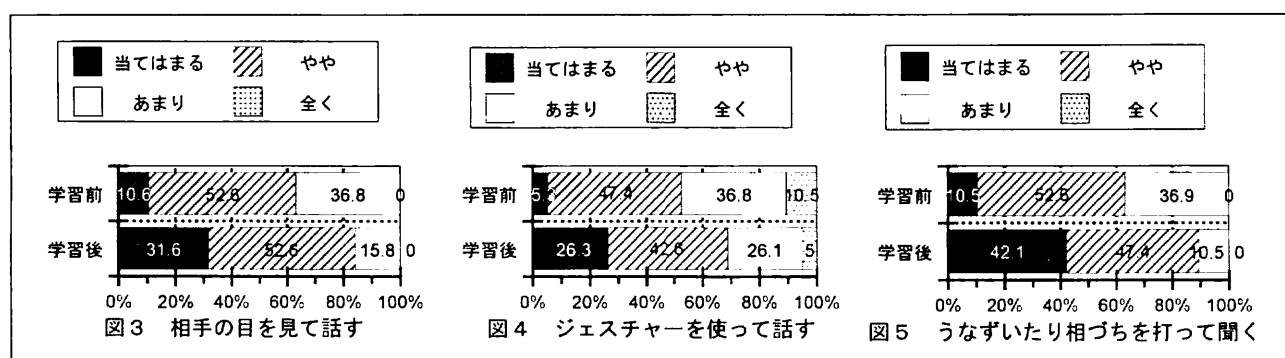


図2は、学習前と学習後に実施した「楽しい学校生活を送るためのアンケート」Q－Uの結果である。学習前は「非承認群」に属する生徒が多かった。「非承認群」とは「いじめや悪ふざけを受けてはいないが、学級内で認められることが少ない生徒」である。「非承認群」に属する生徒の多い集団では、生徒間のトラブルは少ないものの、生徒達が自分の気持ちを表現できなかったり、学級全体で協力して一つのことをやり遂げようとする意欲が弱かったりする傾向がある。学習後は、「非承認群」に属する生徒が26％から10％に減少し、「学級生活満足群」に属する生徒が学習前の42％から58％と増加した。「学級生活満足群」とは「学級内に自分の居場所があり、学級生活を意欲的に送っている生徒」である。こうしたクラスでは、多くの生徒はのびのびと生活できていると考えられる。

(2) 「コミュニケーション時のマナー」実践の様子より

図3～5は、学習前後の「コミュニケーション時のマナー」実践の様子である。学習後は「相手の目を見て話す」は8割以上、「ジェスチャーを使って話す」は7割、「うなずいたり相づちを打って聞く」は9割近くとなった。相手に話を聞いてもらいたい、相手の話に興味を持って聞いているという、話し手と聞き手の相互作用が高まり、話しやすい雰囲気作りができたといえる。



(3) 生徒の感想より

資料3は、授業後に生徒が書いた sharing sheet の感想である。相づちを打つ等のコミュニケーションのマナーを意識して、対話活動を行った時のものである。

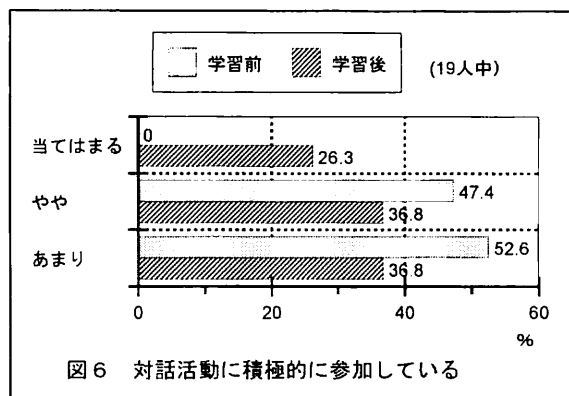
パートナー紹介の時	
- みんな、最近の友達ってことに、気づけた。みんな人それぞれ思いが違った。それを聞けてよかったです。 - 相づちで会話がおもしろくなることがわかりました。 - パートナー紹介がいろんな人とできて楽しかったし、表現力が高まったと思う。	
"Have you ever～?"のinterview game	
- 今日のインタビューで、いろいろな人がいろいろな所に行っている事が分かったのが良かった。 - Interview の時に、友達が自分を見つけると"Hi!!!"とか"Hello!!!"と話しかけてきてくれたので話しやすかった。みんな発音が良かった。ちゃんと相づちもうってて良かった。	
sharing sheetのみんなの感想を読んで	
- みんな考える事が少しずつ違うと思った。 - みんなのコメントがわかって良かった。 - 自分と同じことを思っていると思った。	- みんな楽しんでやっているという事がわかった。 - みんな細かいところに気づいている。 - みんなそれぞれ個性的だった。

資料3 生徒が書いたsharing sheetの感想

(1)(2)(3)の結果からクラスの雰囲気作りができたかを考察する。ペアを組み shadowing を取り入れ、自己表現作文を使っての対話活動を、マナーを意識して行った。授業後にはシェアリングシートを記入し、感じたことを発表したり、紙面で紹介しながら授業を進めた。これらの活動を通して、まずはペアと次に他者と関わり、受け入れられている自分に気づき、違った意見を持つ友人とふれ合いを持つことができたと考えられる。その結果、自己肯定感やよりよい人間関係も育まれ、クラスがコミュニケーションを図りやすい雰囲気になれたといえる。

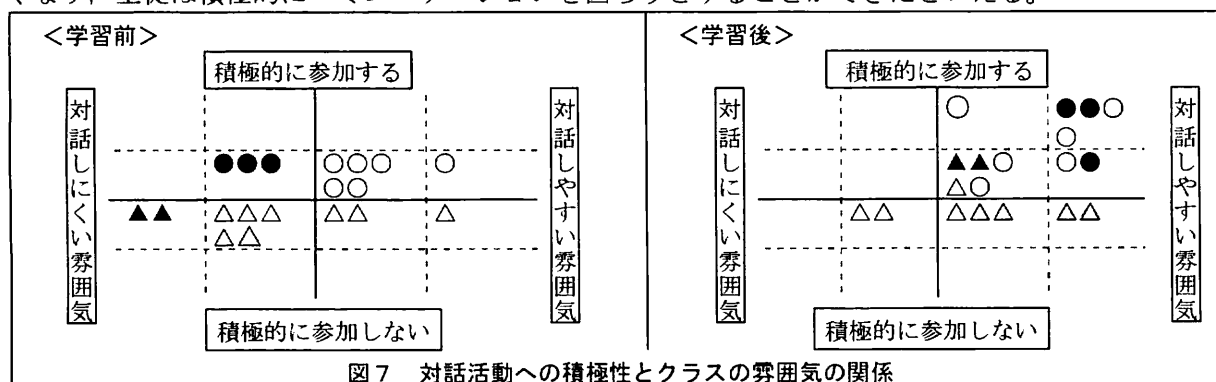
2 「積極的にコミュニケーションを図ろうとする」ことができたか。

図6は学習前・学習後のアンケートでの「対話活動に積極的に参加しているか否か」を問う項目である。学習前では「やや当てはまる」が47.4%、「当てはまらない」が52.6%で、積極的に対話活動に参加していない生徒の方が多かった。学習後は「当てはまる」が26.3%、「やや当てはまる」が36.8%でこの両者を合計すると、63.1%になり、積極的に対話活動に参加する生徒の方が15.7%伸びた。



また、図7は「対話活動への積極性とクラスの雰囲気の関係」を学習前後のアンケートを基に意識の差を度数分布的にまとめたものである。○は「積極的に参加し対話しやすい雰囲気とを感じる」生徒、●は「積極的に参加するが対話しにくい雰囲気とを感じる」生徒、△は「積極的に参加せず対話しにくい雰囲気とを感じる」生徒、▲は「非常に対話活動がしにくいと感じ積極的に参加しない」生徒である。学習前是对話活動に消極的な生徒の多くは、対話しにくい雰囲気と感じていた。●の生徒は3人いた。学習後は「積極的に活動に参加し対話しやすい雰囲気」と答えた生徒が増加した。また、●も意識が変わり積極性が増した。さらに▲2人△1人も「積極的に参加し対話しやすい雰囲気とを感じる」ようになった。

以上のことから、英語の授業において、SGEの手法を取り入れることにより、クラスの雰囲気が良くなり、生徒は積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができたといえる。



V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 英語の授業でSGEの手法を取り入れることによって、対話しやすい雰囲気作りができた。
- (2) クラスが対話活動しやすい雰囲気となり、積極的に対話活動に参加する生徒も増え、英語表現の定着も図れた。

2 今後の課題

- (1) まだ積極的に対話活動に参加できない生徒やクラスの雰囲気になじめない生徒への継続的な支援
- (2) よりよい人間関係が学習意欲の高まりにつながるような授業での支援の工夫

<主な参考文献>

國分康孝著	『エンカウンターで学級が変わる 中学校編』	図書文化	2002年
松畑熙一編	『英語コミュニケーション能力評価実例事典』	大修館	1995年
三浦隆、他	『だから英語は教育なんだ』	研究社	2002年
諸富祥彦著	『自分を好きになる子を育てる先生』	図書文化	2003年
齋藤優・諸富祥彦編	『授業の技を極める40のコツ』	教育開発研究所	2004年